

Z314a ベトナム史書の日食記事

岡崎 彰

ベトナムはかつて漢字文化圏にあり、残された史書には天文現象の記事が含まれている。そのうち、『大越史記全書』（『大越史記續編』も含む）の月食記事については以前に本年会（2014a）で発表した。その後、同史書、『越史略』、『大南寔録』の3史書に収められた（紀元前3世紀から19世紀までの）153件の日食記事について、当時使われていた暦法との関係などに着目しながら考察を進めたので、その報告をする。

主な結果は以下のとおりである。(1) 10世紀のベトナム独立以降の（『大南寔録・前編』を除く）日食記事100件の的中率（実際に日食が起きた割合）は、日食シミュレーションによれば平均して71%であった。一方、紀元前の日食記事は、Ho Peng-Yoke (1964) が指摘したように中国の史書から写された可能性が高い。(2) 協紀暦が導入された19世紀初め以降の記事28件（『大南寔録・正編』）の日食記載率（実際に起きた日食のうち、記事が存在する割合）は78%であり、それ以前の20%未満と比べて極端に高く、首都フエの平均的な日照率（41%）と比べても著しく高い。(3) 『大南寔録・前編』の日食記事29件（うち4件は『大越史記全書』の記事と重複）の的中率は平均して31%と非常に低い。これは17世紀後半～18世紀初めの的中率の極端な低下によるため、この時期には当地で使用されていた暦（広南阮氏の萬全暦）が同時期の黎朝の欽授暦と大きく食い違っていた。

日食の予報は15世紀初めには既に行われていたとの記載がある。全体として日食記事は「日食」「日有食之」という簡単な表記が多く、それらが実際に観測された結果を記したもののなのか、暦計算に基づく予報を記したもののなのかの識別が難しい。しかし、上記の(2)と(3)は、少なくとも『大南寔録』（阮朝〔広南阮氏の時代を含む〕の正史）の日食記事については予報を記したものが多くを示唆している。